

光センサーデータを活用した園地診断GIS

えんちしんだん

果樹試験場

研究のねらい

ミカン産地では、品質保証が可能な光センサー選果機の導入が進んでいます。毎年蓄積される膨大な選果データ（光センサーデータ）は、生産支援や経営の改善に貴重な情報資源といえます。そこで、選果データを活用して園地ごとのきめ細かい診断ができる園地診断GISを開発します。

研究の成果

光センサー選果データを園地台帳や売上データ等とリンクさせたデータベースを作成し、園地マップ（電子地図）とGIS（地理情報システム）上で結合させた園地診断システムを開発しました（写真1）。これにより産地の重点指導対象を明確にでき、園地毎の適切な生産・経営支援を行うことができるようになりました。

- ①一圃場一品種単位の選果データ（写真2）とリンクして園地や農家情報が参照できます。
- ②ベース地図と他の地図を重ねて表示することが可能です。
- ③各種情報画面や地図画面の何れからも条件指定による分布図作成が可能です（写真3）。
- ④一圃場一品種単位の「園地カルテ（写真4）・経年変化カルテ」、農家単位に「農家カルテ」の発行が可能です。また、グラフ表示を併用するなど判りやすく表示できます。
- ⑤営農指導用のメニューを作成し、効率的に的確な指導対象の把握ができます。

成果の活用面・留意点

- ①本システムの利用にあたっては、選果場における園地別集荷が基本となります。
- ②本システムは、日本ユニシステム株式会社より販売する予定です。



写真1：初期メニュー画面

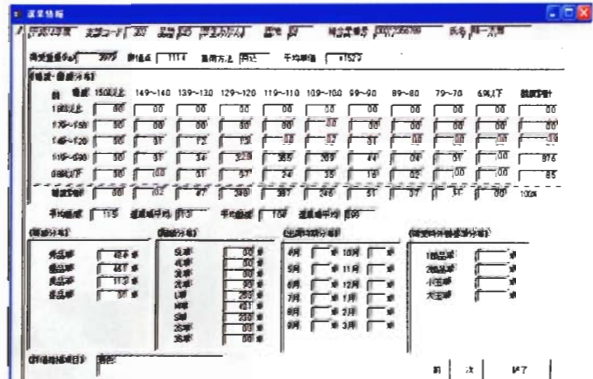


写真2：選果データ画面例

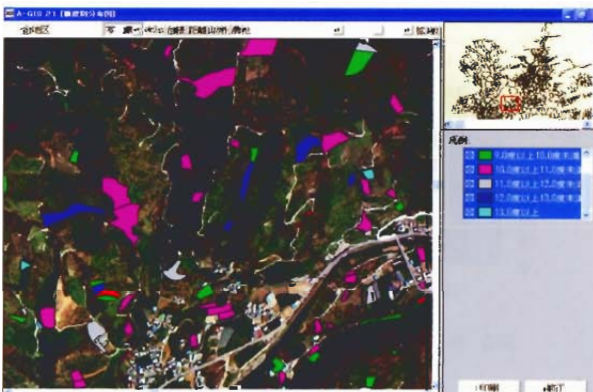


写真3：糖度分布図作成例



写真4：一筆圃場カルテ画面例